

青少年育成指導

広報第176号

令和2(2020)年10月1日
発行 枚方市青少年育成指導員 連絡協議会

委嘱状交付式及び全体会議が中止になりました

令和2年6月6日に予定されておりました令和2・3年度青少年育成指導員委嘱状交付式・全体会議は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催が中止となりました。本来であれば伏見 隆枚方市長から直接挨拶をしていただく場でもありましたが、今回の中止を受けて市長からのメッセージをいただいておりますので掲載いたします。

枚方市長メッセージ

枚方市青少年育成指導員の皆さまにおかれましては、日頃より青少年の健全育成にご尽力いただき、心よりの敬意と感謝の意を表します。

今年度は新型コロナウイルス感染症による未曾有の災禍により、6月に開催予定であった委嘱状交付式が中止になるなど、各方面で多大な影響が出ております。本市としても、この難局を乗り越えるため、様々な支援に取り組んでいるところであります。皆様におかれましては、手洗いやマスクの着用、3密を回避いただくなど、「新しい生活様式」を踏まえた感染予防対策を実践していただきますよう、よろしくお願ひいたします。

さて、昨今、いじめや虐待などに苦しむ子どもたちの問題が深刻さを増す中、近年では、インターネットの利用機会の高まりを受け、ネット依存やSNSを通じた犯罪に巻き込まれる事例なども後を絶ちま

せん。

すべての子どもが健やかに育つ社会を実現するには、地域、保護者、行政、関係機関などが相互に連携し、社会全体で子どもたちの成長を支える環境づくりを進めていくことが大切です。これまでも、皆様には、地域でのパトロール活動や、子どもの緊急避難場所となる「子ども110番の家」の拡大など、様々な地域活動にご協力をいただいております。今後も引き続き、青少年の健全育成にご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、皆さまの今後益々のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、枚方市青少年育成指導員の委嘱にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

伏見 隆

枚方市青少年育成指導員 連絡協議会会長就任挨拶

山本 光茂

このたび、前期に引き続き令和2・3年度の会長に就任させて頂くことになりました。微力ではありますが、役員をはじめ皆さんのご指導ご協力をいただき職責を全うしてまいりたいと思っております。

さて、今年度は、新型コロナウイルスの影響により、委嘱状交付式も開催されない中、新たに96名を迎え総計360名でのスタートとなりました。

青少年の健全育成に向けた活動と、新たな取り組みの推進に思っておりましたが、予定しておりました事業も中止を余儀なくされております。

また、子ども達も学校の臨時休校の発令がされる等その環境は激変しております。

我々、青少年の育成指導者としていたしましてもこれらの現状をしっかりと把握し、学校、行政、地域の方々と連携し、厳しい状況に置かれている子ども達にできることを我々が集約して、実施していかねばならないのではないかと考えております。

やがて自粛要請等が解除となり、一日も早く学校や社会全体も正常な生活ができる環境になるよう願ひしております。

手探りのスタートとなり、何ができるか不透明な状況で、今までのような活動はできませんが、今後の新型コロナウイルス対策の推移を見ながら、一日も早くできることを一つ一つ考え、活動をしていきたいと

考えております。

委員の皆様を始め関係各位におかれましては、今までの以上のご協力、ご支援をお願い致します。

学校におけるコロナ対策

in 春日小

春日小学校 校長
安光 美香

2月末の一斉休校から、今までの学校生活はすっかり変わってしました。4月に校長就任となり、春日小学校に赴任してきたが、するべきことは、今までに経験したことの無い事への対応ばかり。始めに迎える入学式は、密を避けるため、来賓なし、保護者のみ、時間も短縮、さまざまな制限があったが、子ども達や保護者を不安にさせないため学校にできることは…。

まず、教員が安心して働くために、職員室の机の前にはビニールシートで仕切りを作成した。アルコール消毒液は手に入らない・予算もほとんどない状況で、次亜塩素酸水での消毒にシフトを変えざるを得なかった。無料で配布してくれると聞くので、車と人を出して調達に走った。ほとんどの方は家庭での消毒ぐらいでしか考えていらっしやらないが、学校を丸ごと消毒するとなるとどれほどの量が必要になるのか、1教室を1家庭と考えるともらえれば40程の教室、毎日約6000名の手消毒。予算ではまかないきれない。教員は毎日、教室・体育館・遊具・トイレの消毒に追われた。学校でコロナを発生させてはいけないその思いでやってきた。

そんな中、春日小学校区ではコミュニティが次亜塩素酸水生成器を購入して下さり、手指消毒にはこちらを活用させていただいている。トイレの清掃も、地域・PTAの協力を得て、教員の負担も軽減され授業の準備に割く時間も増えてきた。子ども達も、予防のため様々な事に取り組んでくれている。毎日の検温。マスク着用はもちろん、暑いにもかかわらず窓を開けて教室の換気。遊具を触ったり体育をしたりした後は必ず手洗い。教室へ入る前の手指消毒。給食当番は念入りにアルコール消毒。

今後どのように工夫をすれば学校行事等活動が可能か、手探りで進むしかない。



次亜塩素酸水生成器の贈呈
安光校長(右)
出村会長(左)
写真提供・広報かすが

「コロナ禍での活動取り組みについて」

牧野校区代表
仙田 俊昭

新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、校区内パトロールやいきいき広場等の活動を一時的に停止していましたが、新たなメンバーを迎えた本年6月以降は可能な対策を取りながら「青少年健全育成」に取り組んでいくこととしました。

校区内行事は5月末の防災訓練、8月上旬の夏祭りをはじめ、大小含めてイベントそのものが中止となっており、今後10月以降の行事の開催について継続協議中です。

われわれ青少年育成指導員は各種校区内行事のサポートを行ってまいりましたが、活動停止状態です。毎月行っている会議については7月から時間短縮(60分を40分)を行いながら、午後9時からの校区内パトロール(60分程度)を再開しております。

校区コミュニティ協議会の会議で、ある自治会長から「深夜に屯する少年たちがいる」「ボール遊びで迷惑をかけるので子どもの遊びを制限せよと迫る住民がいる」などの情報が寄せられております。パトロール中の声掛けやいきいき広場での活動においても、

子どもたちに寄り添いながら、失敗した際に自ら申し出る事の大切さや、やって良いこと悪いことを具体的に伝えながら、自ら判断できるようになるよう、子どもたちのサポート活動を継続して参ります。



学校紹介

長尾西中学校 校長
石川 裕子

本校は、昭和61年に開校し、今年で35年目を迎えます。現在、各学年5クラス、536名が在籍し、学校生活を送っております。

本校の教育目標は「未来をきりひらくたくましい人間の育成」です。校訓である「努力・協力・叡智」に基づき、自ら主体的に努力する力と、他者と協力しあう新しいものを生み出す力に身に付ける過程の中で、優れた叡智を獲得し、自己の人生をたくましく生きていく姿勢を培うことをめざしています。

近年は、「すてきな西中生」活動を行い、地域社会に貢献できる人材育成に努めています。「すてきな西中生」とは、人のために自分ができることを行う生徒のことで、ボランティア活動を奨励しています。

具体的には、地域の商店の前での「あいさつ運動」、地域の祭りの際のテント張りや模擬店のお手伝い、吹奏楽部の地域演奏会などを実施しています。また、各学期の終わりに、地域清掃を行い、地域とのつながり、人と人とのつながりを大切にすることを育んでいます。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、例年ごとの活動ができませんが、清掃活動やポスター作製など、できる範囲で「すてきな西中生」活動を行う予定です。

青少年育成指導員の皆様には、生徒たちの成長をいつも温かく見守ってください、心より感謝申し上げます。今後、社会に貢献できる「すてきな西中生」の育成に努めてまいります。どうかよろしくお申し込み申し上げます。



令和2年度 大阪府青少年指導員 連絡協議会表彰者

今年度の大阪府青少年指導員連絡協議会にて表彰を受けられた方が次の通り決定しました。大阪府全体で31名のうち枚方市は次の4名の方が対象となりました。おめでとうございます。

蹠陀校区 西井 一博
蹠陀西校区 月森 公
牧野校区 仙田 俊昭
枚方第二校区 竹安 俊幸

表彰式はこれまで総会において実施されてきましたが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため延期となり、実施方法等が決まり次第改めて案内があります。

雑感

枚方第二校区代表
竹安 俊幸

新型コロナウイルスの感染拡大が収束の気配が見えない状況が続いています。そんな中、小学校の先生方は、児童への感染が発生しないよう、いつも以上に気を配り感染予防に努めながら授業をされておられます。

枚方第二小学校コミュニティ協議会では、そんな先生方の負担を少しでも軽減しようと8月

から9月にかけてPTAの方々と共に週2回のトイレ掃除に協力することになりました。普段であれば小学校のトイレ掃除は児童達が行っていましたが、やはり感染防止の観点から今は、床掃除だけを行い、便器周りはすべて先生方が行っているということでした。授業だけでも大変な時なので少しでもその負担を軽減できればという思いからです。

トイレ掃除は便器とノブなどの清掃とともに除菌作業を行います。作業時にはマスクはもちろんのことフェイスシールドと手袋を着用して、万一の感染にも十分注意しながら行いました。

8月の猛暑の中、校舎内とはいえ、かなりの暑さで熱中症にも気を付ける必要がありました。が作業を行うことで、先生方の日々の大変さを実感し同時に児童に対する愛情を感じました。

今後、業者に委託予定とのことですが、先生方の負担は減ることになるようですが、このような状況が少しでも早く解消される日が来ることを願わずにはいられません。また、我々もこの状況が解消されるまで気を抜くことなく感染予防に努める必要があると改めて思いました。

【編集後記】

コロナ禍により例年の活動が中止や延期となったため、異例の紙面構成になったことをご理解ください。

2020年は記憶に残る年になることでしょう。新型コロナウイルスに対して、私たちの政府はなすすべもなく社会がこんなに脆く崩れてしまえば未曾有の事態を招きました。突然の一斉休校により子ども達も保護者も先生方も混乱に陥り、事態が長期化しました。

ある先生は「学校は子ども達が居てこそ学校です」と休校中の苦悩を話され、長い休校が明け子ども達に再会してからは「子ども達は疲れています。ケアに努めたい」と。

8月の「あいさつ運動」で何となく元気がないように見えたのはマスクのせいだけでしょうか。

学校は教科の授業はもちろん大切ですが、友達との遊びや何気ない会話、行事など、学校という生活空間そのものが心身の発達に大切だったと遠い記憶の中に思い出させてくれました。

コロナ禍にあっても思考停止に陥らず、これ乗り越えて、地域において一人の子どもの置き去りにしないように見守り、考え続けて行きたいものです。

